

正倉院文書写経機関関係文書編年目録―天平勝宝二年―

吉松 大志

一 はじめに

本稿は、本誌第三号（一九九九年三月）より継続している正倉院文書写経機関関係文書編年目録の第十二回目にあたる。今回対象とするのは、天平勝宝二（七五〇）年である。本目録作成に至った経緯やその目的などについては、第三号を参照して頂きたい。

二 凡例

・ **文書番号**は、原則として日付順に付した。但し、特に密接な関係を有する文書については隣接させた場合がある。

・ **文書番号**には階層性をもたせている。単体の文書が集合して継文を成す場合、その集合に文書番号を附し、各文書には枝番号を付した。また、各文書が小集合を構成し、いくつかの小集合によって成り

立っている帳簿の場合は、最も大きな集合に文書番号を与え、小集合には枝番号を、各文書にはさらに枝番号を付して、その成立過程を表現しようと試みた。

・ **文書名**の付け方については、その文書の作成目的が明確になるよう心がけた。したがって『大日本古文书』（以下『大日古』と略す）の文書名とは必ずしも同一ではない。往来軸がある場合は基本的にそれに基づき、公式様文書の場合は発信者と書式を明示する文書名を付けた。

・ **年月日**の項には、その文書の作成年月日（帳簿の場合には開始年月日）を示した。（ ）は推定。以下全ての項目において、元号の天平勝宝は「勝宝」と略記した。

・ **期間／作成**の項には、作成年月日が特定できる文書には「作成」を、帳簿など複数の年月日にわたる場合や特定できない場合にはその記載対象の最終年月日を「〜」に続けて示した。なお、案文などは記載年月日と作成年月日が同一とは限らないが、特に区別はせず、記

載年月日をもって作成とした。

- ・写経事業等の項には、当該文書が主として関わる写経事業を記した。特定の写経事業と関係しない文書については、「二」で示した。
- ・文書機能の項には、当該文書が果たした機能や内容を摘記した。
- ・作成／発信↓受信の項には、文書の作成／保管主体、または文書の発信者／受信者を示した。また、案文の場合には「写書所（↓造東大寺司）」という形で、推定される正文の受信者を示した。
- ・大日古の項には、『大日古』編年文書二五巻における所在を巻数と頁数によって三三七八頁（三巻三七七八頁の意）のごとく示した。
- ・文書の所在の項では、以下の略号を用いた。S⇨正集、Z⇨続修、ZK⇨続修後集、ZB⇨続修別集、ZZ⇨続々修、拾遺⇨国立歴史民俗博物館編『正倉院文書拾遺』。断簡番号は、東京大学史料編纂所編『正倉院文書目録』既刊部分（正集⇨塵芥、以下編纂所目録と略す）はそれに従い、必要に応じてマイクロフィルムの紙焼写真に示された紙数番号を（⇨）で示した。未刊部分は紙数番号のみを記した。
- ・次の項には、当該文書が何回利用かを示した。
- ・他の利用の項には、同一の紙質上で当該文書以外に文字を書く媒体として利用されている場合に、それを示した。主に紙背の利用である。利用されていない場合は、空欄とした。
- ・備考の項には、上記以外の留意点を示し、端裏書や、八世紀当時および近代の編成時における往来軸・付箋の情報は必ず記すこととした。また、宮内庁正倉院事務所蔵『正倉院御物目録』『未修古文書目録』（以下、未修目録と略す）による情報〔飯田二〇〇一〜二〇〇三〕を記した。

・宮内庁正倉院事務所編『正倉院古文書影印集成』解説は、集成解説と略す。

・本目録に含まれない勝宝二年の内容を含む文書、および関係する文書については、以下の略称を用いた。文書の所在等については、先行目録の当該文書の項を参照されたい。

〔千部法華経校帳〕…天平二十年〜天平勝宝三年、千部法華経校帳（野尻目録〇二二）

〔写経料紙筆墨充帳〕…天平二十年〜天平勝宝三年、写経料紙筆墨充帳（野尻目録〇八一）

三 写経事業の概観

1 天平勝宝元年以前からの継続事業

光明皇后発願の五月一日経の書写は、天平十五年の方針転換によって、開元釈経録に収載されていない章疏なども書写対象に加えるものとなった。方針転換後の写経は、その底本の入手が困難であることを主原因としてなかなか進まず、写経の規模自体はさほど大きいものはなかった。そして短い中断を経て勝宝二年七月より本格的に再開された〔皆川一九六二〕〔山下一九九九〕。しかし実際には底本の入手の容易なものはこれ以前にほとんど書写し終えており、未写の底本の借り出しができ次第書写するという状況であった。

勝宝二年における五月一日経の書写状況がうかがえる文書として、まず〔四六〕があげられる。七月一日から五月一日経書写再開にあたって新たに経師への紙筆墨の充当帳簿が作成された。〔四六〕には勝宝二年の記載はわずかしが見えないが、食口案〔〇九〕によると七

月には延べ二〇一人もの人員が常疏（五月一日経）書写に投入された。以降小規模であるが書写は継続され、十二月には間写と一緒に常疏二〇六卷分の布施申請がなされている（八三）。

○六卷分の布施申請がなされている（八三）。
一方底本の探索に関しても書写再開に合わせるように史料に現れてくる。六月十七日、起信論元暁師疏の借用申請がなされている（三八）。これは七月一日からの五月一日経書写再開に備えての申請と考えられる。また十一月には平撰大徳に疏二六七卷の借用を申請しており（七九）、積極的に底本を入手しようとする姿勢がうかがえる。

間写経については、まず天平二十年に始まった千部法華経があげられる。これは勝宝二年の写経事業の中心であった（〇九）。校正（〇三）（二二）や充紙（三六）の様子が確認でき、年三回に分けての布施申請がなされている（二五）。一方で書写の終わった分の貸出も行われた（一一）。

勝宝元年に開始された大般若経は、勝宝二年になって本格的に進められたようで、多くの関連文書が残されており、その写経の様相が知られる。二月から書写が開始され、五月末まで継続して進められた（四〇～四六）。六月には布施申請がなされ（四二～四五）、十月には写経に使用した用度物の決算報告がなされた（七五）。なお詳細は「岩宮二〇〇三」で検討されているので、そちらを参照していただきたい。

また勝宝元年に始められた瑜伽論の書写は、小規模ながら断続的に進められている（〇九）。

2 勝宝二年開始の写経

勝宝二年に開始された写経事業としては、まず海龍王経があげられ

る。これは三月に市原王の宣により開始され、ほぼ三月中に書写は終了し（一〇）、八月に布施申請がなされた（五六）。

続いて三月末には御願による八十華嚴経書写も開始された（一二）。五月まで写経は続き、九月に裝潢によって表紙を着ける作業が行われた（〇九）。

四月には大量の人員を投入しての仁王経疏書写が行われた。この事業は五月に内裏で行われる孝謙天皇即位に伴う一代一講の仁王会（『続日本紀』勝宝二年五月乙未条）に新写の仁王経疏を使用するために急ピッチで作業が進められた。四月二日に本経の請求・継打界が（二四～一六）、翌三日からは経師への充紙（二七）（一八）が始まって、書写は四月中に完了したようである（一九）（二〇）。

五月からは百部法華経の書写が開始されたようであるが、用度物申請の文書（四三～〇一）（四七）や、断片的な手実（四九）しか残っておらず詳細は不明である。同じく五月には心経と薬師経の書写が開始されたことが確認できる（三一）（三五）。

六月には寿量品四千卷の書写が開始された。主に六月から九月は一品一巻の小巻の書写（四〇）、九月から勝宝三年六月にかけて三品一巻の三巻複の書写（七二）が行われた（大隅一九九九）。

七月から八月にかけては阿含経も書写され（〇九）、八月二十日に布施申請がなされた（五九～六一）。

また弥勒経・阿弥陀経・寿延経計五巻の用度物に関する文書が残されている（七八）ことから、これらが本年に書写されたことが推測されるが詳細は不明である。

この他に（九七）からは十一面経十一巻・薬師経十巻・無量義経百巻などの書写がなされたことが確認される。

ちなみに最勝王経・大般若理趣分・金剛三昧本性清浄不壊不滅経については、八月十五日に新家弟山宣により写経が命じられ〔〇一〇二〕、用度物申請がおこなわれた〔六五〕が、実際には翌年正月に書写された。

このように勝宝二年は間写経を中心に以前からの継続事業と本年開始の写経が盛んに行われた。〔〇九〕の食口案によると食口数は二千を超える月も珍しくなく、これは他の年に比べて隔絶に多い数字である〔西一九九六〕。さらに七月には五月一日経が再開されるなど、常疏・間写ともに活発な書写活動が行われた年であった。

四 個別文書の検討

〔〇一〕造東大寺司と写書所から発信されたさまざまな文書の案文群である。基本的に右から左に日付順に貼り継がれているが、〔一〇四〕は〔八三〕の冒頭と同文であり、勝宝二年末の文書である。九九紙目と九七紙目は長さの短い白紙であることから、九八紙目の〔一〇四〕は継文ではなく単独で存在したと思われる、おそらく二次文書の食口案作成時に差し込まれたのであろう。〔一〇八〕は八十華嚴経書写に使用した料紙と顔料の使用量と残量を報告した文書。八十華嚴経は勝宝二年三月から書写が行われ、九月には表紙を着けて作業はほぼ完了した〔〇九〕〔一二〕が、最終決算的な事務処理は翌三年になって行われたことがわかる。造東大寺司次官佐伯今毛人による検納を示す追記がある。〔一一〇〕は寿量品用の軸と緒、金字華嚴経用の緒の請求文書。年が書かれてい

ないが両者の書写進行状況から勝宝三年の文書であることが分かる。〔一一〇一〕（十月十八日）と〔一一〇二〕（十月十九日）は一紙に書かれており、また内容も簡略で解の文書形式をとっておらず、これらは正文をそのまま書き写した案ではない。

末尾の「以前並判次官并上毛野判官」という記載から、基となる二通の解文は造東大寺司において次官（佐伯今毛人）と判官（上毛野真人）によって判許されたことが分かる。つまり、判許を受けた後、二通の解文を判許も含めて取意文にして、まとめて一紙に書いたのであろう。

〔〇二〕銭を供出した人物の歴名で、合点が付されている者も確認される。「正月廿三日」とだけあり年がないが、『大日古』が〔七七〕により勝宝二年に収載している。

〔〇三〕「栄原二〇〇五」によると、「千部法華経校帳」の勝宝二年五月に校正作業を集計した記録と内容的に重なっている。ただしこれは百部を超えるような大部数を対象とする二次集計で、その基礎となる十部や二十部程度の一次集計が事前になされており、それを記録したのが〔〇三〕であるとされる。

〔〇七〕〔〇八〕大般若経書写の校正記録。「岩宮二〇〇三」によると、〔〇七〕は校正作業の進行とともに順次記された帳簿であり、〔〇八〕は校正作業の終了後に〔〇七〕をもとに布施支給のための校紙計算を行う目的で作成された。

〔〇九〕勝宝二年における書写事業の食料支給と返上飯の記録。正月から十一月まで記載があり、十二月分はない。解の形をとらないものが多い。〔一〇四〕食口案の七月分の日付（八月一日）は、紙背文書の日付（八月五日）より早くなってしまうが、これはお

そらく食口案が八月五日以降に、一日付で書かれたためであろう
〔西一九九六〕。

〔二〇〕装潢による造紙・経師への紙筆充当・布施支給など写経事業全体に関わる記録が一つの帳簿にまとめられている。冒頭に「依長官宣宣所写／勝宝二年三月十日十部卅卷」とあり、〔一三〕の目録から海龍王経の書写と判明する。千部法華経書写用紙を転用しているとの記述もある。紙背に表の帳簿記載が続いている。

〔二一〕端裏書の「千部用」と「仁王疏反上」とは異筆である。後者について「栄原二〇〇五」は意味不明とするが、仁王疏の返上の際して包紙として使用された際の記載であろうか。

〔二二〕八十華嚴経に関する文書は本文書と〔一〇一—一〇八〕のみである。書写を担当した人物の横に位階が記されている点が特徴的な帳簿。紙背の「九月二十日自政所受表紙」は、〔〇九〕の食口案の九月の装潢の項に「一人着花嚴表紙」とあることから、勝宝二年九月のことであることがわかる。

〔二三〕本文書は既に「野尻二〇〇二」において〔一一二〕として採録されているが、本年三月一日以降の作成にかかる文書のため、本目録にも再掲した。

〔二五〕まず〔一〇二〕と〔一〇二〕の関係であるが、開始の日付から推測するに、〔一〇二〕は継打界の記録である〔一〇一〕と同時並行で作成された筆墨等の受納記録である。〔一〇二〕の末尾には大きな余白があることから、現状は両者つながって未修目録にも三枚とあるが、元々は別個の文書であり、これらは記載が終了した段階で貼り継がれたと思われる。そしてその状態の〔一〇一〕〔一〇二〕を基に作成されたのが〔一〇三〕である。両

者を見比べてみると、記載が一致する部分が多いが、〔一〇三〕には勾点が多く付されている点、四月二十三日以降の記載が見られる点で〔一〇一〕〔一〇二〕と異なっている。つまり、〔一〇三〕は〔一〇一〕〔一〇二〕を基に四月二十三日以降に作成・使用された、全体の進行状況をチェックするための帳簿であったと考えられる。

〔二六〕〔一五〕と同様の帳簿であるが、記載は四月九日で終わっている。おそらく本文書は最初から二紙がなくなった状態で、一紙目に料紙の継打界、二紙目に筆墨受納の記録を書き込んでいったと思われる。ところが一紙目に書くべき記録が多くなって一紙に書ききれなくなつたため、本文書は使用を止められ、新たな帳簿として〔一五〕が作成されていったと考えられる。

〔二七〕題籤には「充仁王経疏紙筆墨帳」とあるが、内容は紙のみの充当帳簿である。

〔三〇〕〔一九〕とほぼ同内容であるが、経師の順番が多少入れ替わっていたり、〔一九〕には見えない経師の記載があったりといった違いがある。〔一九〕の端裏書には「古案」とあるので、本文書は多少の訂正のために新たに作成した帳簿なのである。

〔三二〕紙の右端に一行だけ記載があり、長大な余白となっている。何らかの帳簿として使用しようとしたものか。

〔三四〕『大日古』は封紙とするが、仁王経疏書写の際に使用した公文を保管するための包紙と思われる。

〔三五〕千部法華経の勝宝二年分の布施申請解案三通からなる。〔一〇一〕は統修別集第二二卷の二〜七紙からなり、二紙目と三〜七紙目は書風が異なることから、二紙目は差し替えられた可能性があ

る。本解案群全体の構造は、まず一紙目は表紙で、その端裏書に「千部法華布施文案」とあり、つづけて「一〇一―一〇三」が貼り継がれている。つまり勝宝二年の事務処理作業において、勝宝二年分の布施申請解案三通を貼り継ぎ、右端に表紙を付け、その表紙に上記の端裏書を書いて一巻とされたのである。「栄原二〇〇五」。なお編纂所目録によると、これら三通の文書はもとから貼り継がれていたが、続修別集成巻にあたって継ぎ直されたいらしい。

「一〇二」の末尾には布施班給に伴う追記がある。

〔二六〕三通の出拳銭解と一通の利息記載のない借錢解の計四通が貼り継がれている。日付順に貼り継がれていないことから、これらは写書所に提出されてすぐ貼り継がれたのではなく、二次転用の際に一次面を無視して貼り継がれていたと推測される。

〔二七〕末尾に「帙入公文未上」と記載がある。本文書は包紙として使用されていた紙を転用したものか。

〔二八〕造東大寺司が諸官司・諸国に発信した移・牒案の継文「山口一九九九」。「一〇三」は「一〇二」の余白に続けて書かれている。

「一〇五」は後欠で年月日は不明であるが、「一〇一―一〇四」が右から左に日付順に貼り継がれていることから「一〇四」以降に作成された文書であると推測される。

〔二九〕藍蘭から物資を進上する際に付された送り状の継文「山口一九九九」である（但し「一〇二」と「一〇七」は「藍蘭進上」という書き出しではなく、また「一〇二」だけ進上責任者が他と異なる）。日付を見比べると、「一〇二」だけが五月の文書であり、六月の文書は「一〇四」↓「一〇三」↓「一〇二」、七月の文書は「一〇一」↓「一〇九」↓「一〇八」↓「一〇七」↓「一〇〇

六」↓「一〇五」の順番で右に貼り継がれている。それぞれの文書集合はまず月ごとに貼り継がれ（左芯の月次継文が作成されたか）、最終的に藍蘭からの進上文書としてまとめて貼り継がれたのであろう。

〔三〇〕〔三一〕〔三二〕は末尾に「五月廿七日」とだけあり年が書かれていないが、〔三五〕などから勝宝二年の文書の可能性が高い。〔三〇〕は文書の年代を確定する記載がないが、紙背（二次文書）は〔三〇〕〔三一〕ともに勝宝三年の食口案であることからそれ以前の文書であることは間違いない。そして〔三一〕の紙背と〔三〇〕の紙背が接続する可能性が指摘されている「西一九九六」ことから、〔三〇〕は〔三一〕と比較的近い時期（勝宝二年五月頃カ）に作成され、不要になってからも近い場所に保管されて、勝宝三年に至って同じ食口案に二次利用された（〔三〇〕は天地逆にして）と推測される。

〔三二〕千部法華経の校正作業に関わる記録。「六月二日」とだけあり年が書かれていないが、「栄原二〇〇五」によると勝宝二年の文書である。栄原氏によると「一〇三」と同様の文書であるが、「一〇三」とは性格の異なるもので、「千部法華経校帳」には収録されなかつたらしい。裏奥にある天地逆の記載はこの紙が以前に経典の包紙として使用されていた際のものか。

〔三六〕秦角万呂に対する千部法華経用紙筆墨の充当記録。「写経料紙筆墨充帳」の一葉であったと思われる「栄原二〇〇五」。

〔三八〕起信論元曉師疏一部の借用申請。七月一日からの五月一日経書写再開に備えての申請と考えられる。

〔四一〕寿量品書写に伴う経師ごとの充紙帳簿であるが、ほとんど記

載されず使用が止められている。その理由は未詳だが、実際活用された寿量品の帳簿は四巻複〔四〇〕と三巻複〔七二〕に分けて上紙帳を作成しており、案主側の事務処理方式に変更があったのかもしれない。なお、本文書には六月廿一日に阿倍判官の宣により写すとあるが、実際には六月二十日から書写は開始された。

〔四二〕〔四五〕〔四三〕〔〇二〕を除き、勝宝二年六月付の般若若経の布施申請解案四通である。〔岩宮二〇〇三〕によると、四通は〔四二〕↓〔四三〕〔〇二〕の本文↓〔四四〕↓〔四三〕〔〇二〕の追記↓〔四五〕の順番で作成された。この四通の詳しい作成過程は〔岩宮二〇〇三〕を参照していただきたいが、一点だけ補足したい。〔四五〕の紙背は〔五八〕〔四四〕であるが、〔五八〕は八月十日の文書で〔四五〕より後の日付となる。これは〔四五〕が一旦作成された後、〔五八〕にあたる一四紙目（書写全体の用紙量や布施額の記載）を差し替えたことによるものと考えられる。また、〔四三〕〔〇二〕は百部法華経の用度物に関する文書であるが年月日が記されておらず、『大日古』では勝宝六年七月三十日に類収されている。〔四三〕は未修目録では一巻とされていることから、早い段階から〔一〇二〕と〔一〇二〕は貼り継がれており、両者は比較的近い時期の文書であると思われる。よって〔一〇二〕は勝宝二年の百部法華経書写にかかわる文書であり、〔四七〕との比較から〔四七〕以前に作成されたものと推定される。

〔四六〕七月一日から五月一日経（常疏）書写が再開されるのにあわせて新たに作成された紙筆墨の充当帳簿「山下一九九九」。一紙目は紙背に表の帳簿記載が続いている。十九紙目には鬼室小東人の項に「鬼室」の付箋が付されている。おそらく全員の項に同様

の付箋が付され、帳簿利用の便が図られていたと思われる。

〔四九〕装潢手実群。付箋の情報から〔一〇四〕〔〇六〕は継文であったと思われる。〔一〇二〕の十六紙目には天地逆に千部法華経の校正の記録がある。〔一〇三〕〔一〇六〕は他人の装潢についても一緒に報告している。〔一〇四〕〔〇六〕の余白には布施計算に関する追記がある。

〔五二〕現状の裏が勝宝二年の浄清所解、表が宝字二年の自宮来雑物継文である。紙数と各文書の付箋の状態をまとめると次のようになる。

付箋 (表)	子番号	紙	子番号 (裏)	付箋
〔一ノ十五〕〔四〕	〔宝字04〕	5	〔-01〕	
〔卅二ノ十五〕	〔宝字03〕	4	〔-02〕	
〔三〕	〔宝字03〕	3	〔-03〕	〔廿四帙十一卷〕
〔一ノ十五〕	〔宝字02〕	2	〔-04〕	
〔卅二ノ四〕	〔宝字01〕	1		

〔鬼頭一九七四〕〔松原二〇〇〇〕によると、〔一〇一〕〔一〇四〕は浄清所が紫微中台に提出した解の正文であり、紫微中台での機能終了後造東大寺司に払い下げられた。そして造東大寺司で

浄衣等の進送文書である〔宝字〇一〇四〕を写す際に貼り継がれ、継文となつたとされる。ここで各紙に付された付箋に注目してみると、未修目録とうまく対応しないものもあるが、一紙目の「冊二ノ四」は未修目録¹⁰⁴²「自宮来雜物継文」「二卷四枚」、四紙目の「冊二ノ十五」は未修目録⁸⁴⁹「新米一斗七月廿六日」「一枚」に対応する。つまり続々修成巻時には四紙目は継文ではなく単独で存在し、また一紙目は四紙からなる継文を構成していたことになる。さらに、続々修成巻時の貼り継ぎ順を示す「三」「四」という付箋が五紙中二紙に付されていることからこれらが続々修成巻時に同一集合として扱われていなかった可能性を示唆する。では一紙目から四紙目までが継文で白紙を挟んだ五紙目が単独で存在していたかという点、四紙目の付箋を見る限りその可能性は低く、一紙目には現状とは全く別の紙が貼り継がれて「二卷四枚」を構成していた可能性もある。このような複雑な構造のため断案は提示し難く、本稿では、付箋の情報を参考にするとこれら五紙が奈良時代からの状態を保っているとは言い難い点を指摘するに留めたい。

〔五四〕〔二二〕と同様の一切経の目録であるが、本文書には〔二二〕には見えない經典が見える。両者を比べると、本文書と〔二二〕に共通する經典に関しては本文書において句点はなく、逆に〔二二〕には見えない經典はすべて本文書において句点が付されている。つまり、本文書からチェック済の經典を除いて新たに目録化したのが〔二二〕ということになる（端裏書にも「一切経散帳案」とある）。ただし本文書は〔二二〕をもとに作成され、いくつかの經典に関する記載を増補して使用された可能性もある。な

お紙背の二次利用に関しては、〔二二〕と本文書はともに一切経書写に使用した料紙の量を報告する写書所解案である（日付は異なる）。

〔五五〕山口新家による浄衣二十セットの進上文書。山口新家なる人物はほかにみえない。余白に二四人の名前と「未充」三一人の名前が列挙されている。

〔五七〕集成解説によると、縦方向の折れ筋があり、左端より少しずつ広くなつていて、折りたたみ痕かとされている。書体も丁寧な楷書であり、目下には造東大寺司主典の自署も確認されることから、これは正文であろう。本文書は造東大寺司から北大臣家に折りたたまれて移動し、その後造東大寺司に返却されたと思われる。

〔五九〇六二〕いずれも阿含経書写に対する布施申請に関する文書で、〔六〇〕は「五九」の草案であろう。〔六一〕は「〇九」の紙背（天平十八年三月具注曆の下方）にメモ書のような形で使用した料紙量と布施量が記されており、〔五九〕〔六〇〕の作成に際しておこなった布施計算のメモであろう。

〔六三〕右端天地逆に「佐保法花百部料紙八卷」とあり、本文書が書かれる前に、この紙は料紙の包紙として使用されていたか。

〔六四〕勝宝二年八月から三年七月にかけての経師等の上日数を記した帳簿。杖部造子虫（四紙目）と忍坂忌守友依（十六紙目）の上日記録が「大日古」に未収である「中村一九八四」。本帳簿の詳しい製作過程については「栄原一九九四」参照。

〔六六〕〔六八〕解の前半部分の「六六―〇一」と後半部分の「六六―〇二」合わせて一文書で、〔六八〕とほぼ同内容の布施申請解である。「六六―〇一」と「六六―〇二」は直接はつながらず中間

欠であるが、「六八」との比較により、その欠失が四行分に相当することがわかる。「六八」には経師らの名前の上に丸印が付されており、布施支給台帳として活用されたと思われる。なお「六一〇二」と「六六一〇三」はツキ合せ接続である。

〔六九〕「六六一〇三」の冒頭二行と同文である。後欠であるのは、二次利用の際に切断されたためであろう。右端に異筆で「合拾玖玖文人」とあり、これは習書か。

〔七〇〕現状「一〇一〇三」は貼り継がれているが、それぞれに異なる付箋が貼付されており、続々修成巻前はバラバラの状態であったと思われる。四紙目の「一〇三」が未修目録には二枚とあるのは空紙の五紙目も含めて数えたためと思われる。

〔七一〕『大日古』が「七〇」のあとに収録。「七〇」の帳簿の一部にも見えるが、接続など詳細は不明。「三年五月十三日」とあり、三年とはおそらく勝宝三年のことであろう。

〔七二〕経師ごとに書写完了した巻数を記録していった帳簿。文書内に經典名は記されていないが、巻数・帳数などから寿量品三巻複の書写にかかる帳簿であることがわかる。「大隅一九九九」。書写自体は勝宝三年六月十七日に終了し、七月五日に書写終了巻数九八七巻を他田水主が検定した旨が記されている。二三紙目紙背には表の帳簿記載が続いている。

〔七三〕〔七四〕いずれも年が書かれていないが、『大日古』が勝宝二年に類収しているので便宜にここに立項した。

〔七七〕一紙目「七六」はヨコ九・五cmで、上下を斜めに切断され軸付されている。「七六」が作成された後、その紙背が「七七」の端継として二次利用されたことがわかる。

〔七九〕現状は二断簡にわかれて異なる続々修の巻に収録されている。「一〇一」「一〇二」は直接は接続せず、中間に欠落がある。二次文書は勝宝三年二月と四月のものであることから、一次文書の機能終了後、勝宝三年二月から四月にかけて三分割されて二次利用に供されたと推測される。

〔八〇〕年記載がないが、『大日古』は「九七」により勝宝二年に類収している。記載は十二月から二月にわたる。今後の予定を十二月四日に書いたものか。

〔八二〕〔八二〕両者はいわゆる九〇五巻経書写に伴う布施申請解案。

〔八二〕と関連する七通の布施申請解案の関係性については「吉永二〇〇九」に詳しく述べられている。「八二」は冒頭の総巻数の訂正状況から三段階にわたって手が加えられていることがわかり、勝宝二年末から三年二月にかけて行われた布施申請解作成の基本となる文書であった。「八二」は吉永氏は触れられていないがこれも関連する文書の一つである。冒頭の総巻数の訂正が九一六→九一七という一度のみであること、末尾の日付が他の関連文書と異なり唯一勝宝二年十二月であることから、「八一」は「八二」よりもさらに前段階に作成された布施申請解案であろう。

〔八三〕未修目録に七枚とあるが、これは空紙の七紙目も含めて数えたためと思われる。「八三」の冒頭と「一〇一〇四」は同文。

〔八五〕〔八六〕両者は現状直接貼り継がれており、『大日古』は「八五」と「八六」を一括して立項しているが、両者は筆跡が同一ではなく、機能も異なるので別個の文書として扱った。

〔八八〕梵網経と観无量寿経書写に必要な紙と墨の量について記した文書。実際の書写は勝宝三年正月におこなわれた「九七」。「八

九」の文書内容の一部が記されており、「八九」の抜書もしくは草案と思われる。

〔九二〕布施申請解案の一部と思われるが、いずれの写経事業に関するものか不明。「大日古」が勝宝二年に類収している。「一〇一」と「一〇二」は中間欠で続く。

〔九二〕経師らの見仕・不仕の記録。紙背は勝宝五年の食口案に二次利用されている。「西一九九六」。現状七紙目と八紙目は貼り継がれているが、西氏は「接続カ」とする。「大日古」が「六四」に
より勝宝二年八月に類収しているので便宜にここに立項した。

〔九三〕〔九四〕は「大日古」が「九三」の紙背としているが、実際には現状右に貼り継がれている三十五紙目の天平神護元年の文書の紙背である。両者とも「大日古」が勝宝二年に類収しているので便宜にここに立項した。

〔九五〕〔九六〕ともに年月日が記されていないが、「大日古」が勝宝二年に類収しているので便宜にここに立項した。

〔九七〕『大日古』は裝潢受紙墨軸等帳とするが、主に紙を中心とした物資の受納帳簿である。また『大日古』は勝宝二年二月二八日の文書として掲載しているが、天平十九年から勝宝四年にかけての記録が見える。十二紙・二十紙は短い白紙で、二六紙に付箋（卅七ノ十七）、未修目録⁹⁶⁵「十五枚」がある。おそらく未修目録では十一〜二七紙の十七張から白紙の十二・二十紙を除いた十五張と数えたと思われる。十四紙の裏に淨衣料の記録とともに「楞伽鈔二卷／楞加科二卷」（未収）という記載がある。二二紙は裏にも帳簿記載が続いている。「岩宮二〇〇三」参照。

〔九八〕まだ書写の完了していない一八部の法華経を充本した経師

名を列挙したもの。年は記されていないが、「榮原二〇〇九」によると勝宝三年四月十日〜十七日の間に作成されたものである。

〔九九〕現状の表面が本文書、裏面が天平宝字二年の文書である。おそらく表面の本文書は宝字二年以降のものと思われるが、「大日古」が勝宝二年に類収しているので便宜にここに立項した。

【参考文献】

- 新井重行「正倉院文書写経機関関係文書編年目録―天平勝宝元年―」
〔東京大学日本史学研究室紀要〕七、二〇〇三）
- 飯田剛彦「正倉院事務所所蔵『正倉院御物目録』十二（未修古文書目録）」〔正倉院紀要〕二三～二五、二〇〇一～二〇〇三）
- 石上英一「正倉院文書目録編纂の成果と古代文書論再検討の視角」
〔石上ほか編『古代文書論』東京大学出版会、一九九九）
- 岩宮隆司「天平勝宝元年の大般若経書写について」〔続日本紀研究〕三四六、二〇〇三）
- 大隅亜希子「天平勝宝二・三年の寿量品四千卷書写について」〔南都仏教〕七六、一九九九）
- 大平聡「写経事業と帳簿」〔前掲『古代文書論』）
- 鬼頭清明「皇后宮職論」〔奈良国立文化財研究所『研究論集』Ⅱ、一九七四）
- 栄原永遠男「上日帳について」〔上横手雅敬監修『古代・中世の政治と文化』思文閣出版、一九九四）
- 栄原永遠男「千部法華経の写経事業（上）（下）」〔正倉院文書研究〕十・十一、吉川弘文館、二〇〇五・二〇〇九）
- 藪田香融「南都仏教における救済の論理（序説）」〔日本宗教史研究 四 救済とその論理』法蔵館、一九七四）
- 中村順昭「律令制下における農民の官人化」〔律令官人制と地域社会』吉川弘文館、二〇〇八、初出一九八四）
- 西洋子「食口案の復原（Ⅰ）」〔正倉院文書研究』四、吉川弘文館、一九九六）
- 西洋子『正倉院文書整理過程の研究』（吉川弘文館、二〇〇二）
- 野尻忠「正倉院文書写経機関関係文書編年目録―天平二十年―」〔東京大学日本史学研究室紀要〕六、二〇〇二）
- 松原弘宣「八世紀における瀬戸内海運漕の諸様相」〔続日本紀研究〕三二七、二〇〇〇）
- 皆川完一「光明皇后願経五月一日経の書写について」〔坂本太郎博士還暦記念会編『日本古代史論集 上巻』吉川弘文館、一九六二）
- 山口英男「正倉院文書の継文について」〔前掲『古代文書論』）
- 山下有美『正倉院文書と写経所の研究』（吉川弘文館、一九九九）
- 吉永匡史「正倉院文書写経機関関係文書編年目録―天平勝宝三年―」〔東京大学日本史学研究室紀要〕十三、二〇〇九）

〔付記〕本目録は、かつて渡辺奈穂子氏が石上英一先生のゼミで報告したものを土台とし、吉松による再報告を経た上で作成したものである。したがって渡辺氏の知見を参考にしつつも、文責は吉松にあることを明記しておく。

作成/発信→受信	大 日 古	文書の所在	次	他の利用	備 考
各文書参照	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
造東大寺司 (→?)	十一139~140	ZZ40-1(102)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一194)	
造東大寺司 (→内裏)	十一475~476	ZZ40-1(101)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一192~193)	
写書所 (→造東大寺司)	十一505~506	ZZ40-1(100)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一192)	
造東大寺司(→太政官カ)	十一448~449	ZZ40-1(98)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一191~192)	後欠。
造東大寺司 (→内裏カ)	十一548	ZZ40-1(96)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一190~191)	
写書所 (→造東大寺司)	十一555~556	ZZ40-1(95)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一189~190)	
造東大寺司(→紫微中台)	十二548	ZZ40-1(94)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一189)	後欠。
写書所 (→造東大寺司)	十二6~7	ZZ40-1(93)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一187~188)	
写書所 (→造東大寺司)	十二162~163	ZZ40-1(91~92)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一185~187)	
写書所 (→造東大寺司)	各文書参照	ZZ40-1(90)裏	—	各文書参照	
写書所 (→造東大寺司)	二十五40	ZZ40-1(90)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一184~185)	
写書所 (→造東大寺司)	二十五40~41	ZZ40-1(90)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一184~185)	
写書所 (→造東大寺司)	十三38	ZZ40-1(89)裏	1	二次、奉写一切経所食口案 (宝亀4、二十一183~184)	後欠。
写書所	二十五1	ZZ26-10(24)	1		付箋「廿九ノ十三」、未修目録687「廿枚」。
写書所	十一140~142	ZZ38-1(6~9)裏	1	二次、〔09-05〕	
写書所	十一144	ZZ4-5(1)	1		往来軸「般若紙界上帳」(表裏同文)。
写書所	十一145~150	ZZ4-3(1~4)	1		往来軸「般若紙筆墨充帳」(表裏同文)。
写書所	十一150~156	ZZ4-4(1~4)	1		往来軸「般若本充帳」(左軸、表裏同文)。

文書番号	文 書 名	年 月 日	期間／作成	写経事業	文書機能
01	造東大寺司・写書所解等案	勝宝2.1.28	(～勝宝5.8カ)	各文書参照	各文書参照
-01	造東寺司奉請文案	勝宝2.1.28	作成	法華玄賛	経の返却・進送
-02	造東寺司奏案	勝宝3.2.7	作成	間写	用度物の請求
-03	写書所残物等進送文案	(勝宝3.4.4以降)	作成	私願経	用残物の進送
-04	造東寺司解案	(勝宝2.12.23カ)	作成	五月一日経・間写	布施の申請
-05	造東大寺司啓案	勝宝3.4.21	作成	間写	写経完了の報告
-06	写書所解案	勝宝3.5.21	作成	五月一日経	料紙の請求
-07	造東寺司牒案	(勝宝3.5.21以降カ)	作成	五月一日経カ	使用した料紙の報告
-08	写書所解案	(勝宝3.6.9カ)	作成	八十華嚴経	用残物の報告
-09	写書所解案	勝宝3.10.6	作成	千部法華経	使用した緒の報告
-10	写書所解案	(勝宝3.10.19以降)	作成	各文書参照	各文書参照
-1	写書所解案	勝宝3.10.18	作成	寿量品	緒と軸の請求
-2	写書所解案	勝宝3.10.19	作成	金字華嚴経	緒の請求
-11	写書所解案	(勝宝5.8カ)	作成	—	経堂修理の申請
02	出銭人交名	(勝宝2.1.23カ)	作成	—	銭供出の記録
03	千部法華経校紙検定帳	勝宝2.2.2	～勝宝2.2.23	千部法華経	校正の記録
04	大般若経紙界上帳	勝宝2.2.15	～勝宝2.3.12	大般若経	装潢による上紙の記録
05	大般若経紙筆墨充帳	勝宝2.2.15	～勝宝2.5.27	大般若経	紙筆墨の支給記録
06	大般若経本充帳	勝宝2.2.15	～勝宝2.5.27	大般若経	書写分担と用紙等の記録

写書所	十一458～460	ZZ4-20(10～11)	1	<10> 裏書 (未収)	端裏書「校帳(般若)」。
写書所	十一460～462	ZZ4-20(9)	1		端裏書「校生遺用紙惣帳(依此帳散分耳)/小乗雜律第五帙(十四卷)(抹消)」。付箋「第八帙八」、未修目録101「一卷十三枚」。
写書所	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
写書所 (→造東大寺司)	十一174～176 + 三378	Z14②裏 + S8 ①裏	2	一次、天平十八年具注曆(天平18、二570～574)、三次、〔61〕	
写書所 (→造東大寺司)	十一227～229	ZZ38-1(3)	1		付箋「廿七ノ四」、未修目録543「一枚」。
写書所	十一229～231	ZZ38-1(4)	1		
写書所	十一231～233	ZZ38-1(5)	2	一次、〔55〕	付箋「八帙十五卷」。
写書所	十一233～235	ZZ38-1(6～9)	2	一次、〔03〕	<9> 付箋「八帙十五卷」。 <9> は空。
写書所	十一171～173	ZZ34-5(1)	1		往来軸(右軸、頭欠)。
造東大寺司 (→岡本寺)	十一176～177	ZZ16-3(7)	1	裏書(筆墨を充当した経師の歴名・詩抜書)	端裏書「千部用」[仁王疏反上]。
写書所	十一178～180	ZZ6-2(1)	1	裏書(写上巻数等の記録)	往来軸(右軸)「八十花嚴経帳」(表)「請表紙」/八十花嚴経帳/「請筆」(裏)。
写書所	十一170～171	ZZ16-1(4)	2	一次、僧善珠状(天平18、九260～261)	
写書所	十一180～181	ZZ9-4(1)	1		往来軸「自處々請仁王疏本」(右軸、表裏同文)。 付箋「八十」、未修目録103「一卷一枚」。
写書所	各文書参照	各文書参照	—		
写書所	十一181～184	ZZ9-1(1～2)	1		端裏書「仁王疏/古案」。 往来軸「請仁王経疏紙筆墨軸/緒并繼打界帳」。 (1) 付箋「卅七ノ十二」、未修目録960「三枚」。
写書所	十一184～185	ZZ9-1(3)	1		付箋「卅七ノ十二」、未修目録960「三枚」。
写書所	十一185～189	ZZ9-1(4～7)	1		<4> 付箋「九ノ九」、未修目録118「一卷四枚」。 <7> は空。
写書所	十一189～190	ZZ32-5(26～27)	1		<26> 付箋「廿ノ三」、未修目録337「一枚」。
写書所	三378～388	ZK15	1	<1> 裏書(写大般若经文〔二十四120、天地逆〕)	往来軸「充仁王経疏紙筆墨帳」。(左軸、表裏同文、未収)。

07	大般若経校帳	(勝宝2.2カ)	(～勝宝2.5カ)	大般若経	校正の記録
08	大般若経校帳	(勝宝2.5カ)	作成	大般若経	校正の記録
09	写書所食口案	勝宝2.3.1	(～勝宝2.11頃)	五月一日経・問写	食料支給と返上の記録
-01	写書所食口案	勝宝2.3.1	～勝宝2.4.1	五月一日経・問写	食料支給と返上の記録
-02	写書所食口案	勝宝2.5.1	～勝宝2.6.1	五月一日経・問写	食料支給と返上の記録
-03	写書所食口案	勝宝2.6.1	～勝宝2.8.1	五月一日経・問写	食料支給と返上の記録
-04	写書所食口案	勝宝2.8.1	(～勝宝2.10頃)	五月一日経・問写	食料支給と返上の記録
-05	写書所食口案	(勝宝2.11頃)	作成	五月一日経・問写	食料支給と返上の記録
10	海龍王経紙筆布施充帳	勝宝2.3.1	～勝宝2.4.25	海龍王経	書写作業全体の記録
11	造東大寺司牒案	勝宝2.3.3	作成	千部法華経	経典の貸出
12	八十華嚴経用紙筆墨帳	勝宝2.3.28	～勝宝2.9.20	八十華嚴経	紙筆墨の支給記録
13	問写経疏目録	(勝宝2.3.1以降)	作成	問写	経疏の目録の一部
14	仁王経疏本奉請帳	勝宝2.4.2	～勝宝2.5.20	仁王経疏	仁王経疏の借用・返却記録
15	請仁王経疏紙筆墨軸緒并継打界帳	勝宝2.4.2	～勝宝2.5.13	仁王経疏	継打界の記録と筆墨等の受納記録
-01	仁王経疏紙継打界帳	勝宝2.4.2	～勝宝2.4.22	仁王経疏	料紙受納と継打界の記録
-02	請仁王経疏筆墨軸緒帳	勝宝2.4.3	～勝宝2.4.14	仁王経疏	筆墨軸緒の受納記録
-03	請仁王経疏紙筆墨軸緒并継打界帳	勝宝2.4.2	～勝宝2.5.13	仁王経疏	継打界の記録と筆墨等の受納記録
16	請仁王経疏紙筆墨并継打界帳	勝宝2.4.2	～勝宝2.4.9	仁王経疏	継打界の記録と筆墨の受納記録
17	充仁王経疏紙帳	勝宝2.4.3	～勝宝2.4.22	仁王経疏	料紙充当の記録

写書所	十一191～200	ZZ9-2<1～9>	1		往来軸(左軸)「仁王疏/充墨筆」(表)「仁王疏/紙本/充墨筆」(裏)。端裏書「不」。<9>付箋「四十一ノ九」、未修目録1027「一卷九枚」。
写書所	十一201～212	ZZ9-3<1～5>	1		往来軸「写仁王經疏上帳」(表裏同文)。端裏書「任王疏文古案」。<1>付箋「卅七ノ十三」、未修目録961「五枚」。
写書所	十一212～223	ZZ9-3<6～11>	1		<6>付箋「六ノ四〔三カ〕」、未修目録70「一卷六枚」。
写書所	二十五 5	ZZ37-9<23>裏	1	二次、〔48〕	
写書所	十一223～227	ZK25	1	二次、写書所解案継文(勝宝5、三503～504+628～629、天地逆)	端裏書「一切經散帳」。
写書所	二十五 5～6	ZZ9-9<3>	1		付箋「三」「卅一ノ六」、未修目録770「一枚」。
写書所	二十五 6	ZZ47-2<6>	1		
写書所(→造東大寺司)	各文書参照	各文書参照	—		
写書所(→造東大寺司)	十一241～250	ZB22(2)	1		
写書所(→造東大寺司)	十一337～345	ZB22(3)	1		端裏書「千部」。
写書所(→造東大寺司)	十一430～439	ZB22(4)	1		
各文書参照	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
高屋兄脰→写書所	三395	Z25②	1	二次、造石山寺写經所食物用帳(宝字6、十五482～483)	冒頭未収「東十」。
佐伎万呂→写書所	三406	ZK20①	1	二次、造石山寺写經所食物用帳(宝字6、五33)	冒頭未収「東卅」。
新田部入加→写書所	三391	Z25①	1	二次、造石山寺写經所食物用帳(宝字6、十五481～482)	冒頭未収「東六」。
息長黒麻呂→写書所	三405	Z25③	1	二次、造石山寺写經所食物用帳(宝字6、十五480～481)	冒頭未収「東卅」。
写書所	二十五 6～8	ZZ37-9<65>	1	裏書(装潢校生布施法・装潢充紙の記録〔天地逆〕)	
各文書参照	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
造東大寺司(→某国)	十一252～253	ZZ17-7<19>裏	1	二次、造東大寺司牒案(神護景雲2、十七102)	
造東大寺司(→左京職)	三402	ZB1①(1)	1	二次、造東大寺司牒案(神護景雲2、十七144)	
造東大寺司(→内匠寮)	三402～403	ZB1①(1)	1	二次、造東大寺司牒案(神護景雲2、十七143～144)	

18	仁王経疏充紙筆墨帳	勝宝2.4.3	～勝宝2.4.25	仁王経疏	紙筆墨充当の記録
19	写仁王経疏上帳	勝宝2.4.8	～勝宝2.4.24	仁王経疏	経師ごとの写上記録
20	写仁王経疏上帳	勝宝2.4.8	～勝宝2.4.24	仁王経疏	経師ごとの写上記録
21	仁王経疏料紙文	勝宝2.4.13	作成	仁王経疏	料紙の記録
22	一切経散帳	(勝宝2.4.21以降)	作成	五月一日経	一切経の目録
23	仁王経疏経師歴名	(勝宝2.4頃)	作成	仁王経疏	経師歴名
24	仁王経疏公文包紙	(勝宝2.4頃)	作成	仁王経疏	包紙
25	写書所解案	勝宝2.5.4	～勝宝2.12.16	千部法華経	布施の申請
	-01 写書所解案	勝宝2.5.4	作成	千部法華経	布施の申請
	-02 写書所解案	勝宝2.7.19	作成	千部法華経	布施の申請
	-03 写書所解案	勝宝2.12.16	作成	千部法華経	布施の申請
26	借錢解	勝宝2.5.6	～勝宝2.6.5	—	借錢申請
	-01 高屋兄胔出拳銭解	勝宝2.5.15	作成	—	借錢申請
	-02 出雲安麻呂借錢解	勝宝2.6.5	作成	—	借錢申請
	-03 新田部入加出拳銭解	勝宝2.5.6	作成	—	借錢申請
	-04 山道津守出拳銭解	勝宝2.5.26	作成	—	借錢申請
27	間写経充紙并装潢等帳	(勝宝2.5.15㍻)	(～勝宝2.7.22㍻)	間写	充紙と上紙の記録
28	造東大寺司移牒案	勝宝2.5.20	～勝宝2.5.26	—	各文書参照
	-01 造東大寺司牒案	勝宝2.5.20	作成	—	郡司への推挙
	-02 造東大寺司移案	勝宝2.5.24	作成	—	請過所使の認定申請
	-03 造東大寺司移案	勝宝2.5.25	作成	—	工人到来に対する返抄

造東大寺司(→兵部省)	三403~404	ZB①(2)	1	二次、造東大寺司牒案(神護景雲2、十七143)	
造東大寺司(→因幡等国)	二十五205	ZZ43-22<11>	1	二次、造東大寺司牒案(神護景雲1、十七110)	後欠。付箋「十六帙十三卷」、未修目録287「一枚」。
各文書参照	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
倉垣三倉→造東大寺司	二十五8~9	Z43⑦(2)裏	1	二次、食法(天平宝字4、四455)	
土形人足→造東大寺司	十一280	Z43⑦(1)裏	1	二次、食法(天平宝字4、四455)	一行目右端微欠。
倉垣三倉→造東大寺司	三407	Z42⑥	1	二次、食法(天平宝字4、十五84)	
倉垣三倉→造東大寺司	三406	ZZ46-6(9)裏	1	二次、食法(天平宝字4、十一489)	
倉垣三倉→造東大寺司	三412	S44⑩	1	二次、食法(天平宝字4、十五85)	
倉垣三倉→造東大寺司	三411	ZZ46-6(8)裏	1	二次、食法(天平宝字4、十一488~489)	
倉垣三倉→造東大寺司	三410~411	ZZ46-6(7)裏	1	二次、食法(天平宝字4、十一487~488)	付箋「廿五帙七卷」。
倉垣三倉→造東大寺司	三410	ZZ46-6(6)裏	1	二次、食法(天平宝字4、十一487)	日下署名「倉垣三倉」未収。
倉垣三倉→造東大寺司	三409~410	ZZ46-6(5)裏	1	二次、食法(天平宝字4、十一486~487)	
倉垣三倉→造東大寺司	十一323	ZZ46-6(4)裏	1	二次、食法(天平宝字4、十一486)	
写書所(→造東大寺司)	二十五22	ZZ38-1(2)裏	1	二次、写書所食口案(天平勝宝3、十一491~492)	天地逆。
写書所	二十五9~11	ZZ38-1(1)裏	1	二次、写書所食口案(天平勝宝3、十一489~491)	
写書所	十一143~144	ZZ23-5(41)	1	奥裏書「大乘雜第二帙<九 无緒>」(天地逆)	
(丈部曾祢万呂→写書所)	二十五11	ZZ4-20(12)裏	1	二次、〔34〕	全文抹消。天地逆。
丈部曾祢万呂→写書所	十一253	ZZ4-20(12)	2	一次、〔33〕	付箋「廿七ノ第一」「九」、未修目録527「片紙」。
写書所(→造東大寺司)	十一253~254	ZZ42-4(10)	1	二次、〔37〕	
写書所	十一254	ZZ23-4(54)	1		
写書所	十一255	ZZ42-4(10)裏	2	一次、〔35〕	
造東大寺司(→?)	十一256	ZZ32-5(28)裏	1	二次、写疏料筆墨充帳(天平15~勝宝3、十一250~251)	前欠。
写書所	十一276~280	ZZ28-15(11~13)	1		
写書所	十一264~276	ZZ9-10(1~5)	1		往来軸「寿量品上ノ四卷複(表裏同文)」。

	-04	造東大寺司移案	勝宝2.5.26	作成	—	位記に関する申請
	-05	造東大寺司牒案	(勝宝2.5.26以降カ)	作成	—	糶米停止の申請
29		藍蘭進上文	勝宝2.5.26	～勝宝2.7.6	—	物資進送
	-01	藍蘭進上文	勝宝2.5.26	作成	—	物資進送
	-02	藍蘭進上文	勝宝2.6.27	作成	—	物資進送
	-03	藍蘭進上文	勝宝2.6.24	作成	—	物資進送
	-04	藍蘭進上文	勝宝2.6.21	作成	—	物資進送
	-05	藍蘭進上文	勝宝2.7.6	作成	—	物資進送
	-06	藍蘭進上文	勝宝2.7.5	作成	—	物資進送
	-07	藍蘭進上文	勝宝2.7.4	作成	—	物資進送
	-08	藍蘭進上文	勝宝2.7.3	作成	—	物資進送
	-09	藍蘭進上文	勝宝2.7.3	作成	—	物資進送
	-10	藍蘭進上文	勝宝2.7.2	作成	—	物資進送
30		写書所解案	(勝宝2.5頃カ)	作成	—	考紙と銭の進上
31		佐保宅写経充本帳	勝宝2.5.27	作成	心経・薬師経	本経充当等の記録
32		千部法華経校紙散分文	勝宝2.6.2	作成	千部法華経	校正の記録
33		丈部曾祢万呂手実案	勝宝2.6.3	作成	大般若経	造紙手実
34		丈部曾祢万呂手実	勝宝2.6.3	作成	大般若経	造紙手実
35		写書所解案	勝宝2.6.6	作成	心経・薬師経	軸の請求
36		秦角万呂充紙筆墨文	勝宝2.6.10	～勝宝2.9.1	千部法華経	紙筆墨充当の記録
37		経疏櫃帙等借用帳	勝宝2.6.16	～勝宝2.8.7	間写	櫃や帙等の借用記録
38		造東大寺司牒案	勝宝2.6.17	作成	五月一日経	本経借用の申請
39		装潢料紙筆墨軸等納帳	勝宝2.6.20	～勝宝3.11.12	寿量品	料紙の受納・造上の記録
40		寿量品上帳	勝宝2.6.20	～勝宝2.11.21	寿量品	経師ごとの写上記録

写書所	二十五12	ZZ5-9<23>裏	1	二次、千部法華経校帳 (天平20～勝宝3、十520 ～521)	天地逆。
写書所(→造東大寺司)	十一280～284	ZZ42-3<5～8>裏	1	二次、造東大寺司写経用 度申請解案(勝宝4カ、 十二272～277)	前欠。
写書所(→造東大寺司)	各文書参照	各文書参照	—		
写書所(→造東大寺司)	十三85～87	ZZ46-1<1>	1		付箋「二」「十一ノ三」、 未修目録132「一卷五枚」。
写書所(→造東大寺司)	十一288～294	ZZ46-1<2～5>	1		
写書所(→造東大寺司)	十一285～288	ZZ41-5<15～17>裏	1	二次、[45]	前欠。<15>左端「般若案」 (未収)。
写書所(→造東大寺司)	十一295～300	ZZ41-5<14～17>	2	一次、[58]・[44]	
写書所	十一300～323	ZZ36-2<1～20>	1		横帳。<19>付箋「鬼室」。
写書所(→造東大寺司)	十一324～330	ZZ5-4<1～6>	1		<1>付箋「卅五ノ十八」 <6>付箋「一」、未修目録 920「一卷六枚」。
写書所	十一330～331	ZZ37-9<23>	2	一次、[21]	<23>付箋「十五」「廿七 ノ第六」、未修目録564 「一枚」。
各文書参照	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
物部足国→写書所	十一332	ZZ27-3<15・16>	1		<15>付箋「卅一ノ一」 「十四」、未修目録716「片 紙」。
春日虫麻呂→写書所	十一333	ZZ27-3<17>	1		付箋「廿四帙六卷」「十 五」、未修目録452「卷 廿三枚」。
文部曾祢万呂→写書所	十一333	ZZ27-3<18>	1		端裏書「裝潢手実」。付 箋「十六」「卅二ノ三」、 未修目録811「一枚」。
春日虫麻呂→写書所	十一334～335	ZZ27-3<19>	1	裏書(布施計算の記録)	付箋「十一ノ五」「十七」、 未修目録150「三枚」。
能登忍人→写書所	十一335～336	ZZ27-3<20>	1		
治田石万呂→写書所	十一336～337	ZZ27-3<21>	1		端裏書「手実」。付箋「十 一ノ五」、未修目録「三 枚」。
写書所	十一346～347	ZZ16-6<6～7>	1		
浄清所→紫微中台	三412	ZZ43-22<16>	1		付箋「三十ノ八 四(朱)」、 未修目録699「片紙」。
浄清所→紫微中台	各文書参照	各文書参照	—	自宮来雑物継文(宝字2、 十一347～350)	
浄清所→紫微中台	十一350	ZZ44-3<5>裏	1	二次、浄衣進送文案(宝 字2、十一349～350)	
浄清所→紫微中台	十一351	ZZ44-3<4>裏	1	二次、浄衣進送文案(宝 字2、十一349)	

41	寿量品充紙帳	勝宝2.6.21	作成	寿量品	料紙充当の記録	
42	写書所解案	勝宝2.6	作成	大般若経	布施の申請	
43	写書所解案	勝宝2.6	(～勝宝2.7.16以前カ)	各文書参照	各文書参照	
	-01	写書所解案	(勝宝2.7.16以前カ)	作成	百部法華経	料紙の報告と申請
	-02	写書所解案	勝宝2.6	作成	大般若経	布施の申請
44	写書所解案	勝宝2.6	作成	大般若経	布施の申請	
45	写書所解案	勝宝2.6	作成	大般若経	布施の申請	
46	紙筆墨充帳	勝宝2.7.1	～勝宝6.12.19	五月一日経	紙筆墨充当の記録	
47	写書所解案	勝宝2.7.16	作成	百部法華経	用度物の報告と申請	
48	経紙并表紙用帳	勝宝2.7.18	～勝宝3.3.21	写経一般	料紙の使用記録	
49	装潢手実帳	勝宝2.7.18	～勝宝2.9.12	各文書参照	各文書参照	
	-01	物部足国手実	勝宝2.7.18	作成	写経一般	装潢手実と校正記録
	-02	春日虫麻呂手実	勝宝2.7.18	作成	写経一般	装潢手実
	-03	丈部曾祢万呂手実	勝宝2.7.18	作成	写経一般	装潢手実
	-04	春日虫麻呂手実	勝宝2.9.12	作成	百部法華経	装潢手実
	-05	能登忍人手実	勝宝2.9.11	作成	百部法華経	装潢手実
	-06	治田石万呂手実	勝宝2.9.11	作成	写経一般	装潢手実
50	間写経疏惣帳	勝宝2.7.21	作成	間写	進捗状況の記録	
51	浄清所進上文	勝宝2.7.22	作成	—	物資進送	
52	浄清所解	勝宝2.7.26	～勝宝2.7.29	—	各文書参照	
	-01	浄清所解	勝宝2.7頃	作成	—	土器製作に関する報告
	-02	浄清所解	勝宝2.7.26	作成	—	米の進送

浄清所→紫微中台	十一-351	ZZ44-3(3)裏	1	二次、浄衣進送文案(宝字2、十一-348~349)	付箋「廿四帙十一卷」、未修目録457「一卷四枚」。
浄清所→紫微中台	十一-351~353	ZZ44-3(1~2)裏	1	二次、(2)浄衣進送文案(宝字2、十一-348)、(1)浄衣等進送文案(宝字2、十一-347~348)	
写書所(→造東大寺司カ)	十一-353~354	ZZ16-4(11)	1		付箋「卅五ノ一」、未修目録896「一枚」。
写書所	十一-355~359	ZZ2-11(5~7)	1	二次、写書所解案(勝宝5、十二-419~420)	端裏書「一切経散帳案」。(5)付箋「廿八ノ二」「二」(7)付箋「二」、未修目録585「一卷三枚」。
山口新家→写書所	十一-360~361	ZZ38-1(5)裏	1	二次、[09-04]	
写書所(→造東大寺司)	十一-361~363	ZZ41-6(6~7)	1		端裏書「案」。(7)付箋「□〔三カ〕」「廿一帙三卷」、未修目録415「二枚」。
造東大寺司→北大臣家→造東大寺司	三-414~415	S44⑭	1		
造東大寺司(→?)	十一-366	ZZ41-5(14)裏	1	二次、[45]	
写書所(→造東大寺司)	三-415~419	ZB23①	1		端裏書「不」(未収)。
写書所(→造東大寺司)	十一-367~370	ZZ41-6(10~11)	1		後欠。端裏書「丈不用〔「案一遍」を抹消〕」。(10)付箋「五」「廿二ノ二」、未修目録434「一卷二枚」。
写書所	二十五15	Z14②	3	一次、天平十八年具注曆(天平18、二-570~574)、二次、[09-01]	楽書。
写書所	十一-370~371	ZZ32-5(41)	1		付箋「廿五」「内/廿五ノ九」、未修目録508「片紙」。
写書所	二十五16~18	ZZ27-4(45)	1	裏書(千部法華経用紙の借用記録・楽書等)	付箋「廿九帳ノ内廿五ノ九」「廿二」、未修目録508「片紙」?。
写書所	三-426~458 + 十-371~374	ZB40 + Z28⑧裏	2	一次、ZB40(1~19)裏経師等上日帳(勝宝1~2、三-280~311)、Z28⑧写書所解案(天平20、三-78~81)	端裏書「天平勝宝二年上日帳」。ZB40(1)冒頭朱書、Z28⑧(10)裏「長官」(右端下方)切断半存、ともに未収。
造東大寺司(→太政官カ)	十一-371~374	ZK24	1		
写書所(→造東大寺司)	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
写書所(→造東大寺司)	三-423~424	ZK38(4)裏	1	二次、経疏出納帳(勝宝3、三-544~547)	
写書所(→造東大寺司)	三-425	ZK38(3)裏	1	二次、経疏出納帳(勝宝3、三-543~544)	
写書所(→造東大寺司)	三-419~422	ZB25②	1		

-03	浄清所解	勝宝2.7頃	作成	—	物資の返上と請求	
-04	浄清所解	勝宝2.7.29	作成	—	使用物や取納物等の報告	
53	本経論返送文案	勝宝2.7.29	作成	間写	本経の返送	
54	一切経散帳案	(勝宝2.8.1以降)	作成	五月一日経	一切経の目録	
55	経師等浄衣進上文	勝宝2.8.5	作成	—	浄衣の進上	
56	写書所解案	勝宝2.8.6	作成	海龍王経	布施の申請	
57	造東大寺司牒	勝宝2.8.17	作成	—	法華経の返却請求	
58	作礎功食請文案	勝宝2.8.19	作成	—	人功と食料の請求	
59	写書所解案	勝宝2.8.20	作成	阿含経	布施の申請	
60	写書所解案	(勝宝2.8.20カ)	作成	阿含経	布施の申請	
61	阿含経布施文	(勝宝2.8.20カ)	作成	阿含経	布施量の記録	
62	請経并充筆墨等文	(勝宝2.8.21以前)	～勝宝2.9.10	写経一般	筆墨充当等の記録	
63	装潢充紙并造上帳	勝宝2.8.25	～勝宝2.9.17	間写	料紙充当と造上の記録	
64	経師等上日帳	勝宝2.8	～勝宝3.7	—	上日数の記録	
65	造東大寺司解案	勝宝2.8	作成	間写	用度物の申請	
66	写書所解案	勝宝2.8	作成	各文書参照	布施の申請	
	-01	写書所解案	勝宝2.8	作成	涅槃経義記	布施の申請
	-02	写書所解案	勝宝2.8	作成	涅槃経義記	布施の申請
	-03	写書所解案	勝宝2.8	作成	花嚴経慧崗師疏	布施の申請

写書所(→造東大寺司)	十一374~376	ZZ24-3(4~5)裏	1	二次、経師校生装潢上日案帳(勝宝4、十二368~371)	前欠。
写書所(→造東大寺司)	十一376~379	ZZ24-3(2~3)裏	1	二次、経師校生装潢上日案帳(勝宝4、十二364~368)	
写書所(→造東大寺司)	十一380	ZZ24-3(1)裏	1	二次、経師校生装潢上日案帳(勝宝4、十二364)	後欠。
写書所	各文書参照	各文書参照	—		
写書所	十一387~389	ZZ44-7(1)	1	裏書(充紙記録〔未収〕)	付箋「一」「廿五ノ九」、未修目録508「片紙」か。
写書所	十一389~390	ZZ44-7(2~3)	1		〈3〉付箋「二」「廿四帙十卷」、未修目録456「一卷十六枚」。
写書所	十一390~392	ZZ44-7(4)	1		付箋「四十三ノ七」「三」、未修目録1105「二枚」。
写書所	十一392	ZZ27-4(35)	1	裏書「瑜伽論軸一百枚」(未収)	付箋「卅一ノ□十」「十九」。
写書所	十一392~418	ZZ24-2(1~23)	1		往来軸(右軸、頭欠)。〈23〉付箋「卅五ノ五」、未修目録907「一卷二十三枚」。
造東大寺司(→笠山寺三綱所)	十一419	ZZ16-3(9)	1		
写書所	二十五18~19	ZZ35-6(80)裏	1	二次、経師等写疏紙筆墨充帳(天平18~勝宝3、九46~47)	
造東大寺司(→太政官カ)	三463~468	ZB15①	1		末尾下端「謹上 右」(天地逆、未収)。
写書所	二十五23	ZZ43-2(1)裏	1	二次、〔77〕	
写書所	十一419~421	ZZ43-2(1~2)	2	一次、〈1〉〔76〕	往来軸「借用銭注」(表)「帳」(裏)。〈2〉付箋「九ノ四」、未修目録113「一卷二枚」。
写書所(→造東大寺司)	十一421~422	ZZ42-4(7)	1		末尾に残画あり(未収)。
造東大寺司(→平撰大徳)	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
造東大寺司(→平撰大徳)	十一427~429	ZZ38-2(17~18)裏	1	二次、写書所告朔并食口案(勝宝3、十一525~528)	
造東大寺司(→平撰大徳)	十一429~430	ZZ41-5(9~10)裏	1	二次、造東寺司解案(勝宝3、十604~605)	
写書所	二十五19~20	ZZ13-5(11)	1		
造東大寺司(→太政官カ)	三471~475	ZB15②	1	〈4〉裏書「理趣経疏三卷/右以十一月三日奉請教輪師所付智憬師所」(天地逆、未収)	末尾日下「他田水主」に方朱印「書」(鴨書手印)踏印。〈4〉右端微存(未収)。未収の追記あり。
造東大寺司(→太政官カ)	三478~483	ZB14	1		

67	写書所解案	勝宝2.8	作成	大品経疏	布施の申請
68	写書所解案	勝宝2.8	作成	涅槃経義記	布施の申請
69	写書所解案	(勝宝2.8カ)	作成	花厳経慧菌師疏	布施の申請
70	写書所紙筆軸等納帳	勝宝2.9.10	～勝宝3.12.28	写経一般	紙筆軸等の受納記録
	-01 写書所紙筆軸等納帳	勝宝2.9.10	～勝宝3.6.3	写経一般	紙筆軸等の受納記録
	-02 写書所紙筆軸等納帳	勝宝3.8.12	～勝宝3.12.28	写経一般	紙筆軸等の受納記録
	-03 写書所紙筆軸等納帳	(勝宝4.9.8カ)	(～勝宝4.9.29カ)	写経一般	紙筆軸等の受納記録
71	写書所軸納帳	(勝宝3.5.13カ)	作成	写経一般	軸の受納記録
72	経師上紙帳	勝宝2.9.10	～勝宝3.7.5	寿量品	経師ごとの写上記録
73	造東大寺司牒案	(勝宝2.9.29カ)	作成	—	経の貸出請求
74	校生充本并写経用紙文	(勝宝2.10.10カ)	作成	八十華嚴経	充本記録と料紙数の記録
75	造東大寺司解案	勝宝2.10.13	作成	大般若経	用度物の報告
76	考紙并銭検定文	(勝宝2.10.15以前カ)	作成	—	考紙と銭の記録
77	借用銭注帳	勝宝2.10.15	(～勝宝3.1.23カ)	—	借用銭の記録
78	写書所解案	勝宝2.11.8	作成	問写カ	用度物の報告
79	造東大寺司牒案	勝宝2.11	作成	五月一日経	本経の貸出請求
	-01 造東大寺司牒案	勝宝2.11	作成	五月一日経	本経の貸出請求
	-02 造東大寺司牒案	勝宝2.11	作成	五月一日経	本経の貸出請求
80	写経用紙検定文	(勝宝2.12.4カ)	作成	写経一般	料紙の記録
81	造東寺司解案	勝宝2.12.23	作成	問写	布施の申請
82	造東寺司解案	(勝宝2.12.23)	作成	問写	布施の申請

造東大寺司(→太政官カ)	十一439~447	ZZ41-3(1~6)	1		(1) 付箋「廿一ノ第六」、未修目録427「七枚」。
智憬→造東大寺司カ	未収	『拾遺』48	1		
造東大寺司	十一449	ZZ40-2(20)裏	1	二次、奉写一切経所食口案(宝亀4、二十二317~319)	佐伯今毛人の自署あり。
造東大寺司	十一450~453	ZZ40-2(18~19)裏	1	二次、奉写一切経所食口案(宝亀4、二十二313~317)	
教輪→造東大寺司カ	十一453~454	ZZ16-7(1)	1	二次、[88](天地逆)	
写書所	十一454	ZZ16-7(1)裏	2	一次、[87]	天地逆。
写書所	三476~477	ZZ42-4(1)	1		
写書所(→平撰大徳)	三478	ZB7⑥	1		
写書所(→造東大寺司)	各文書参照	各文書参照	—	各文書参照	
写書所(→造東大寺司)	十一380~384	ZZ15-4(3~8)裏	1	二次、経疏帙籤等奉請帳(勝宝8、十三192~197)	
写書所(→造東大寺司)	十一455~457	ZK6(2)	1	二次、(3~4)仏像雑具請用帳(勝宝8カ、四106~108)	
写書所	十一385~387	ZZ38-4(7~8)裏	1	二次、写書所食口案(勝宝5、十二407~408)	
写書所	二十五14	ZZ44-10(36)	1		付箋「三〇〇〔十二カ〕」「卅一ノ三」、未修目録735「片紙」。
写書所	二十五14	ZZ44-10(35)裏	1	二次、造東大寺司雑物返上帳(天平神護1、十七10)	
写書所	二十五20~21	ZZ38-2(5)裏	1	二次、写書所告朔并食口案(勝宝3、十一511)	
写書所	二十五23~24	ZZ44-10(46)	1		付箋「卅一ノ〇〔十カ〕」「廿〇」、未修目録795「三十五枚」。下部大破。
写書所	十一156~170	ZZ37-4(11~27)	2	一次、(11)華嚴経奉請文(勝宝元、十663)、裏書((14)浄衣料等の記録[未収あり])、(22)朱沙の受納記録	(26)付箋「卅七ノ十七」、未修目録965「十五枚」。
写書所	十一137~139	ZZ5-1(26~27)	2	一次、(27)経本奉請文(天平20、十334~335)	(26)付箋「(判読できず)」、(27)付箋「廿四帙八」「二」、未修目録454「一卷十枚」か。
写書所	二十五12~14	ZZ44-10(25)	1	二次、奉写経所布施奉請文案(宝字2、十四53~54)	付箋「廿六ノ五」「廿四」、未修目録513「一枚」。

83	造東寺司解案	勝宝2.12.23	作成	五月一日経・問写	布施の申請
84	僧智憬状	勝宝2.12.26	作成	—	経典の返送
85	櫃納経目録	勝宝2.12.24	作成	—	櫃納経典と奉請先の記録
86	造東寺司未返経論疏文	勝宝2.12.28	作成	五月一日経	未返却経典の記録
87	僧教輪状	勝宝2.12.26	作成	—	経論疏の返送
88	写経用紙墨文案	(勝宝2.12.27カ)	作成	私願経	必要な紙墨の記録
89	写経用紙墨文	勝宝2.12.27	作成	私願経	必要な紙墨の報告
90	写経所牒案	勝宝2.12.29	作成	—	経の返送
91	写書所解案	(勝宝2カ)	作成	—	布施の申請
	-01 写書所解案	(勝宝2カ)	作成	—	布施の申請
	-02 写書所解案	(勝宝2カ)	作成	—	布施の申請
92	経師等歴名案	(勝宝2カ)	作成	—	経師等の見仕・不仕の記録
93	浄衣料換算文	(勝宝2カ)	作成	—	浄衣に関する記録
94	物資借用文	(勝宝2カ)	作成	—	物資の借用記録
95	考紙并銭進上経師等交名	(勝宝2カ)	作成	—	銭と紙の供出の記録
96	知識写経布施出納文	(勝宝2カ)	作成	—	布施収納と出用の記録
97	紙墨等納帳	天平19.12.5	～勝宝4.6.12	問写	料紙等の出納記録
98	千部法華経上帳	勝宝3.4.10～17	作成	千部法華経	書写未了の経師の記録
99	浄衣雑物目録	(宝字2以降カ)	作成	—	浄衣構成具の目録